

令和元年横田基地研修所感

法人賛助会員
日本電気株式会社
谷野 翔一 氏

JAAGA 主催による横田基地研修当日、集合場所の昭島駅までは生憎の悪天でしたが、日が上がるにつれて見る見る回復し、絶好の研修日和となりました。

CV-22 オスプレイ、C-130J スーパーハーキュリーズ、RQ-4 グローバルホークを見学し、いずれの機体も、何よりその大きさに圧倒されました。CV-22、C-130J についてはコックピットも含めた余すところのない内部見学ができる貴重な機会をいただきました。RQ-4 は、アンダーセン空軍基地(グアム)所属ですが、例年夏の悪天候から回避するために、4ヶ月間(今年は諸事情で2ヶ月間)日本に滞在しているところを見学させてもらえたようでした。今回、ブロック 30 型・40 型の2機が並んでおり、高高度・長時間対空能力、保有しているセンサー、運用イメージ(トモダチ作戦での運用事例など)に至る非常に具体的な説明をいただき、無人機で対応する領域が現実であり、将来さらに拡大していく様相を実際に垣間見ることができました。

第5空軍会議室において、シュナイダー司令官以下、高官の方々との接見およびブリーフィングをいただきました。冒頭、司令官より歓迎のお言葉を頂戴し、第5空軍の任務の多様性、また地理的スケールの大きさに大変驚くとともに、航空自衛隊との緊密な連携関係について、より理解を深めることができました。宇宙軍に関する司令官のお考えを伺える場面もあり、部隊の位置付け、統合任務の重要性に関する率直な見立てなど大変貴重なお話を伺えました。防衛大綱に基づき、宇宙作戦に向けた検討を進める航空自衛隊にとって、どのような能力、運用、組織等が必要となるか、今まさに米軍で取り組んでいることが大変参考になるだろうとの考えを持ちました。

昼食は、将校クラブへ移動し、井筒司令官以下、総隊司令部の方々が合流され、日米合同の昼食会となりました。日米合同バンドによる素晴らしい演出のおかげで、英語に自信のない私でも、八村塁選手についてなど、趣味のバスケットボールの話題で米軍の方々と友好親善させていただける貴重な時間となりました。また、日米間の終始にこやかに会話されている様子から、平素から密でフランクな交流を持たれていることが想像でき、非常に心強く感じることができました。

航空総隊司令部では、任務、部隊紹介、主要装備等についてブリーフィングをいただきました。また、施設研修においては、日米の間で有機的な連携が図られていることを実感しました。その後、井筒司令官による講話を拝聴しました。防衛大綱における新領域・多次元統合を踏まえ、「総隊一丸」に因んでリーダーシップに関する司令官のお考えを聞く大変貴重な機会となりました。特に印象に残ったことは、指揮官が部下とコミュニケーションを通じて調節したうえで決断・命令をくだすことが責任感あるリーダーシップであり、それを成すのは指揮官の品格・人格である、ということです。これこそがまさに統御につながる考え方なのだろうと深く感銘を受けました。

本研修を通じて、新たな防衛大綱が示すとおり、安全保障環境の変化・複雑化にともなって、日米連携の一層の強化が必要なことを強く肌で感じました。今回、様々な場面で友好親善を図ることができ、研修の目的を達成することができました。民間の立場から国家安全保障に貢献できることの誇りと責任を改めて認識し、より一層士気を高める大変貴重な経験となりました。お力添えをいただきました関係者の皆様にはこうした機会を設けていただき心より感謝申し上げます。